

つなまち

No.183
TSUNAN-TOWN
2011年8月5日発行



6月定例会 6/15~17

平成 23 年度会計補正予算	②、③
一般質問	④~⑨
決まったこと	⑩
委員会レポート	⑪
シリーズ 私もひと言	⑫

23年度

一般会計補正予算

3号

今予算は長野県北部地震の大きな被害を受け、地方交付税、県支出金等の大幅な増額により歳入歳出それぞれ9億9,540万7千円を追加し歳入歳出予算の総額、それぞれ76億2,660万6千円とし全員賛成で可決されました。

歳入	
地方交付税	1億0,000万0千円
分担金及び負担金	1,384万0千円
国庫支出金	△2,781万5千円
県支出金	7億1,002万2千円
繰入金	896万0千円
繰越金	6,755万1千円
諸収入	404万9千円
町債	1億1,880万0千円
歳入合計	9億9,540万7千円

歳出	
総務費	935万2千円
民生費	3,392万1千円
衛生費	1,058万8千円
労働費	403万5千円
農林水産業費	4,032万1千円
商工費	987万1千円
土木費	1,077万5千円
消防費	2億272万0千円
教育費	1,432万9千円
災害復旧費	6億5,949万5千円
歳出合計	9億9,540万7千円

●農林水産業費

県単農林水産業総合振興事業補助金
1,585万8千円
農地水保全管理支払交付金(新規事業)
147万4千円
きのこ王国支援事業補助金
1,998万3千円

●商工費

観光施設等修繕料
787万1千円
夏休み津南周遊バス運行委託料
40万円

●土木費

住宅改修補助金
500万円

●消防費

応急修理委託料
2,800万円
解体運搬費委託料
1億2,495万円
被災者生活再建支援制度補助金
4,000万円

●教育費

小学校費
546万3千円
中学校費
461万6千円

●災害復旧費

農業用施設災害復旧費
4億6,910万円
林道災害復旧費
3,710万円
道路橋梁災害復旧費
1億4,830万円
公立学校施設災害復旧費
499万5千円



被害写真(道路崩落)

主な歳出補正内容

●総務費

広報無線機修理100台分
237万1千円
長野県北部地震災害復興基金積立金
(前年度受領額)
511万2千円

●民生費

介護基盤緊急整備臨時特例補助金
2億3,697万3千円

●衛生費

クアハウス津南修繕料
889万3千円

●労働費

重点分野雇用創出事業受託料(2人分)
403万5千円

23年度特別会計補正予算

◎簡易水道特別会計

補正額
2,590万2千円
総額
2億4,154万6千円

主な内容

谷内地区基盤整備工事にもなう
布設替工事負担金増

◎下水道事業特別会計

補正額
105万0千円
総額
4億0,635万9千円

主な内容

災害復旧のための修繕費

◎農業集落排水事業特別会計

補正額
2億9,530万0千円
総額
5億9,146万8千円

主な内容

災害復旧工事費

◎病院事業会計

補正額
450万円
主な内容
震災によるエレベーター棟の災害
復旧工事費

中山 弘議員

長野県北部地震対応は

町長：国県と連携し復旧復興に務める

緊急時の津南町の対応は

問 震災時に町職員の役割は果たせたのか。

町長 当日から21日まで夜間を問わず24時間体制で対応してきた。

問 被災状況の情報伝達がなされていたのか。

町長 3月12日だけでも広報無線で40回ほど、職員の収集した被害状況を伝えた。

問 ボランティアの受入れ体制が無く、町内外の有志者に戸惑いは無かったか。

町長 救援を求めてきたのは13件ほどで全て職員が対応した。

東京電力と津南町の関係は

問 東日本大震災での福島第一発電所の事故に対する思いは。

町長 ふるさとを無くし避難してこられた人達の心情は察して余りあるものがある。我町も住宅に農地を付けて提供する用意がある旨の情報を発した。



被災の大きい小学校体育館

問 柏崎原発が福島レベルの事故が起きた時の津南町の対応は。

町長 柏崎から50km圏内にある我町も被害に遭う可能性がある。地域防災計画の見直しを基に検討したい。

問 菜の花やひまわりが放射性物質を吸収するというが、福島にひまわりの種を提供する考えはあるか。

町長 既に宮城県南三陸町出身の方から要請があり、10ha分の種を無償提供した。

問 西大滝ダムの水利権更新は今後の津南町に多大な影響を及ぼすが、意志を伺う。

町長 信濃川中流域水環境改善検討協議会のメンバーでもありモ二タリングを引き続き行い、的確な対応を行う。

大平謙一 議員

自然エネルギー活用のおもしろさを

町長：コストが合えば強力に進める

電力不足が表面化した。小水力、太陽光発電を

問 電力不足が現実となつていく。エコの町づくりに積極的に取り組むべきと思うが町長の考えは。

町長 津南町は平成15年に津南地域新エネルギービジョンを策定し、可能性のある雪の冷熱利用、バイオ堆肥など実現可能なものは実施している。風力、小水力、太陽光発電などは条件やコストなどまだ問題を克服すべき課題がある。雑水山水路に新潟県土地改良連合会が国から100%融資を受けマイクログ発電機を取り付けたが、原価償却やコストを考えると現実的ではない。経済的コストが整えば推進したい。

問 原発が大問題となつていく。町長の原発に対する考えを伺う。

町長 原発は危険なものと考えている。国民的なものである脱原発を願う考えは皆同じであるが、脱原発へのプロセスが一番大事であるし、脱原発は一朝一夕には不可能である。代替エネルギー等の対策が必要と考えている。



雑水山小水力発電所

問 農業は赤字状態であり、農業を守る対策は急務である。私は財源に新税を導入し農業の所得補償を実現すべきと考えるが町長の考えは。

町長 新税を導入し農業の所得補償も大事であるが、現実的な対応を考えると、産業として自立できる農林業とするための予算の拡大が重要である。安心安全の農産物の提供を前提として、農村社会の充実を図ることが人口の分散や自然環境を守ることにつながる。日本は待ったなしと考える。

草津 進議員

園児数の減少による保育園のあり方は

町長：課題を克服し抜本的に考える時期である

長野県北部地震による被害状況を

問 津南町における被害総額の把握と、復旧、復興の優先順位は。

町長 雪消えが遅くなかなか把握しきれなかった。現時点においてもこれで終わりとは考えていない。あくまでも途中経過報告であり、5月31日現在推定での被害額は、25億5160万4千円となっている。国、県に関わるのは別であり、この額に加えなければならぬ。優先順位は当然ライフラインの復旧である。

保育園の適正規模適正配置の検討は

問 少子化に伴う園児数の減少による保育園のあり方についての考えは。

町長 4月における園児数は248人となっている。定員495人の50%である。今後の10年間で実に34%もの減が見込まれている。保育園の運営については入園される園児に一定の割合で発達障害が見られることからマン



早く進めたい復旧工事

ツーマンの対応が余儀なくされ、園児数の減少に相反して職員数が増加している現実がある。現状を踏まえて課題を克服し、抜本的に考える時期に来ていると思つている。

答申されている小学校の統合は

問 複式学級が増加していくのか、今後の統合についてどのような検討を進めていくか。

教育長 平成20年3月24日付けで答申書が出されている。教育委員会としては、出された答申を尊重していく。保護者会、地域の思いも聞いていく。

福原照男 議員

国道大倉トンネルの開通見通しは

町長：竣工は10月の天候安定期に

国・県道改良工事と23年度事業費は

問 信濃川の川端が津南小学校から上段釜堀川にかけて崩落しているがどのような対策をされているのか。国道117号大倉トンネルの開通が待たれるが開通日は決定しているのか。また、豊船橋線と、相吉地内の改良工事はどうか。

町長 大倉トンネルの竣工については10月の天候の安定期と思つている。町単独での竣工を予定し、国・県工事関係者と協議してゆく。

建設課長 正面から上段にかけての崩落箇所ボーリング調査も行ったところであり、工区分けが行われ、住宅密集地から工事が着手される見通し。豊船橋線は用地交渉が今年度、その後3、4年後の完成とみられる。相吉地内は住民への説明で幅員縮小でおおむね理解をいただいている。

水利権更新条件は

問 水利権更新に対する町としての条件提示はどのような内容であったのか。



間近にせまった開通

町長 5月25日付意見書を「許可は妥当と考える。但し、下記意見書を尊重願いたい。①国及び県は河川管理上の諸問題について、関係市町村との連絡調整に留意した上での適切な管理に努められたい。②西大滝ダムにおいて、迷入防止泡の設置・魚道の改善・ダム下流部の魚道までの誘導等、魚類の遡上降下をよりよくするための努力を継続して実施されたい。③水利使用者及び河川管理者は河川環境等の状況に応じた柔軟な対応に努力され、水利使用者は信濃川中流域水環境改善検討協議会の意見を尊重されたい」として県知事に回答したところである。

藤ノ木浩子議員

震災被害をどう復旧・復興させるか

町長：先も見据え、復旧・復興を心がけているのか。
被災者ひとり一人の復興支援を

問 町民は過去の震災被害の上に再び地震に襲われ、生活再建への不安や苦しみが、まだまだ続いている。元の生活に戻るめどが立たなければ復興にはならない。被災者ひとり一人の復興に向け、制度の周知を図ることや困難から立ち直れる支援が必要だ。町長は震災をどう受け止めておられるのか。

町長 平成4年の上郷地震以降、震度5以上の地震が5回あった。今回のみならず先も見据え、復旧・復興を心がけている。

問 国の被災者生活再建支援法による全壊最高額300万円の引き上げと対象世帯拡充を、国・県に要望していただきたい。

総務課長 金額が充分かと言われるのが、財源手当てが可能かどうか、検討する必要があると思う。時期を見ながら活動を展開していく必要がある。

問 被災自治体間で住民支援に差があるが、連携し対応できないのか。



宅地被害に大きな支援を

町長 災害復旧は拙速を尊ぶ。この政治姿勢は変える必要はない。国・県の施策決定が遅れてきている。

問 自治体の行革で職員数は減り、臨時職員は多い。震災後不安を募らせる住民からは「役場の人は誰も来てくれない」の声や復興支援室の開設でも難儀をした経過があるが、職員数は圧倒的に足りないのではないのか。

町長 緊急時の不足は否めない事実であるが、圧倒的に不足しているとは思わない。スタツフ機能を有効に機能させていくかが不可欠である。

根津勝幸議員

原子力発電の安全をどう確保するか

町長：脱原発は自然な国民感情の流れである
原子力についての見解と
町民を守る義務について

問 原子力発電所のみならず、原子力そのものの不用を訴える人が多くなっている。柏崎刈羽原発から50km以内に位置するわが町は「町民を災害から守る義務」があると考える。町長の「原子力」についての見解と「町民を守る」という立場で近隣市町村との連携を図る災害対策が必要と考えるがどうか。

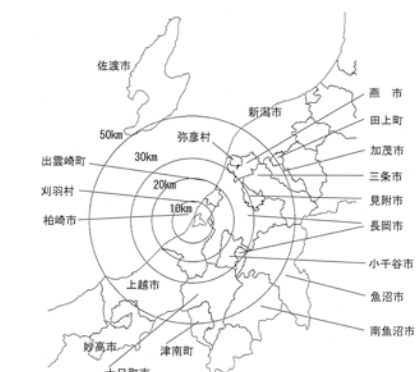
町長 脱原発は現状において自然な国民感情の流れであると認識している。しかしながら現実の社会においては廃止、脱原発に直結できるものではないとも考えている。電力は国民生活に不可欠である。脱原発も含め国のエネルギー政策をいかに確立確保していくか、これは国防や外交に匹敵するあるいはそれ以上の課題であり、広く国民の真を問うべき大きな課題である。また、当町は柏崎刈羽原発から50kmから60km圏内に位置している。柏崎刈羽原発に一旦緩

急あったときには、他市町村との連携をどのようにして対応策を持つかということは、きわめて重要なことである。県の防災計画の見直し作業が行われているように伺っている。そうした中で町民の安全確保と合わせて考えていきたい重要な課題であると考えている。

町政人事について

問 町長就任から1年、町民のためにも右腕となる人事の考えは。

町長 適切な時期に、適切な人材を的確に選任させていただきたい。



柏崎刈羽原発から50km以内に85万人が暮らす

栗原洋子議員

防災の町、災害に強くなりたい

町長：今後避難所のあり方、十分検討したい

公共施設の耐震化を

問 避難所となる公共施設の耐震診断、耐震構造への取り組みが必要だがいかがか。

町長 災害復旧は「原型復旧」が基本、旧耐震校舎の津南中体育館は来年度耐震診断を実施し、できるだけ早く耐震補強工事を行いたい。避難所として今後使用できるように天井を全て落すことで国の査定を受けた。津南小は天井の8割を落すことが認められた。上郷小、芦ヶ崎小、外丸小、上郷中については天井を全面落すことで認められた。集落公民館も新耐震基準に満たない所もある。今後避難所のあり方については十分検討していきたい。

教育長 多目的の対応に耐えられ、避難所としても機能するような建物を目指したい。

問 個人住宅の耐震診断、耐震改修の促進を。総合評点1.0未満の簡易改修工事に対しても補助し、耐震強化をする必要があるがどうか。

町長 国の設定した基準に満たないため国や県の補助事業に当て

はまらず耐震補助事業に該当させることは困難である。



耐震工事の早期完成を（写真は津南小）

建設課長 耐震改修の申請が何件もあれば、国や県にも相談していきたい。

問 この度の地震で被災した町民のために津南病院も大きな役割を果たした。病院の耐震強化と災害時の体制づくり、日頃の訓練が重要と思うがいかがか。

町長 H8年耐震診断、H9年に耐震強化工事を行った。今後将来を見据えた抜本的な改築等も検討を考えている。

病院事務長 災害マニュアルを充実させながら、大規模な避難訓練を今後検討していきたい。

恩田 稔議員

国道353号の復旧について

町長：通行止め解除の見通しは立っていない

問 国道353号辰ノ口地内で夜間通行止め、国道117号も栄村で大型車の通行止めが続いている、早急の対応が必要ではないか。

町長 崩土の下には、1mから2mの雪が残っており、復旧の障害となっている。

問 日中が通れるなら夜間も通すことが可能と思われるが。

町長 危険の判定は、目視によるものもあり、現状では難しい。

飯山線のSL運行について

問 来秋に長岡駅、十日町駅間にSLが運行するとの報道があるが、津南町はどのような情報を保持していたのか。

町長 十日町から飯山までは線路路盤が悪く、又カーブも多い為、SLにあわせて、飯山線そのものの改良が必要なこと、折り返し等の問題で、今回は十日町より上流側は走行できないとJR東から話があった。

問 難しい問題があることは承知しているが、津南町の観光にとっても、大きな影響を及ぼすこのSLを津南駅、森宮野原駅まで延長

するように努力するべきではないか。

町長 改良の要請を沿線自治体と連携しJRに要請し、全線でSLを走らせるよう求めていきたい。

問 津南町は蚊帳の外の感がある。地震復旧後の試験運転には運行予定と同クラスの機関車（DE10）が使用されている。また、転車台も飯山駅にはあり、あきらめるのは早すぎると思うが。

町長 諦めてはいない、話し合いをしてみたい。



かつての蒸気機関車の勇姿

滝沢茂光議員

新十日町病院は県立県営の継続を

町長：厚生連病院は県立病院を凌ぐシエア

安心して命を任せられる 医療こそ大事

問 医療崩壊が進むなか十日町病院は自治体病院として、最も健全経営を保ちつつ私共の生命と健康を守り続けている。
中越地震を機に、再建は公設民営で進めたいとの知事発言を受け、深く議論されないうまま推移するなかで、津南町議会では県立県営の継続の要望書を県へ提出している。地域医療を守るうえで津南町住民として偽らざる本音と
町長 厚生連病院は県立病院を上回るシエアを持ち県内の医療の一翼を担っており、今後とも住民の医療をサポートしていただける機関のひとつと考えているところである。

問 医療崩壊が進む厚生連病院の実態が、農協共済総研の調査で明らかとなっており、その中で、「既に崩壊へ」45%「このままだと崩壊する」54%となっており、医療崩壊の原因は「医師不足」95%「医師の過重労働」78%、全国で115ある厚生連病院全体で不足する医師数は計770人に達したとの日本農業新聞での記事だが、内容を町長は把握しているか、又その様な病院に医療をまかされないと考えるがいかがか。
町長 私はその記事は読んでいないのでよくは解らないが、県病院局ではある程度掌握し、動いてるものと思う。

町内に点在するダム の安全性は

地域振興課長 ため池等は集落管理であり、それぞれの管理者に注意喚起していきたい。



地域の期待十日町病院

大島知美議員

津南町には災害対応マニュアルがない

町長：マニュアルではない柔軟な発想と対応が必要

行政の顔が見えない

問 被災された方々は町にどういった事を望んでいると思うか。
町長 町政に対する信頼・行政のぬくもりを求めているのではないか。

問 いち早い対応を取る。一つとして、集落担当制のような取組はどうか。
町長 集落自治に町が加担する事は考えなければならぬ。

総務課長 集落担当制までは考えていない。

問 集落自治まで口を出すという事ではなく、町と集落嘱託員とのパイプ役で、行政から集落まで出向き一緒に安否確認・情報収集をする補助的な役割、配布物を届けるだけではなく、さらに集落との連絡を密にする。また一緒に廻る事により、情報収集も出来、町民の方々が安心するのではないかと
総務課長 そのような場面も考えてみたい。

刈羽原発は大丈夫か

町長 防災計画の中では原子力



技術大国日本？（事故後のチェルノブイリ原発）

安全対策は記載されていない。津南町は刈羽原発より50km、60km圏内に位置している。防災計画には対策がないので、県防災会議・地域防災計画の見直しを元に町民の安全確保について国・県をはじめ広く識者を集めて検討しなければならぬ。福島原発レベルの事故が発生し津南に放射能汚染が拡散した場合、新潟の県庁から津南までの一帯が汚染され、人口にして県民243万人のうち190万人が被災する。このような被害が拡散された場合、我一町の力では困難である。

大口 武議員

原発から撤退を決断すべきとき

町長：スローガンのでは賛成できない

原発技術は 未完成で危険

問 原発でひとたび莫大な放射能が外部に漏れ出すと人類はそれを抑える手段を持っていない。空間的にはどこまでも拡散し、時間的にも人体に対しても何十年も被害をもたらす。チェルノブイリは25年を経た今でも30kmの範囲は立入禁止である。さらに社会的にも地域社会が成り立たなくなるような危険をもたらす。
使用済核燃料の再処理工場は20年たっても事故続きで稼働せず、高いレベルの廃棄物処理のメドもたっていない。原発技術の未完成の見解は。

町長 人間が作るものに完全無欠はない、原発も同様で完全に安全性を保障できるとは考えていない。

問 日本は地震国、津波国でその危険性、対策については再三指摘されてきた。日本での原発設置は適切であったか。
町長 資源小国の日本で原発の電力がなかったら、現在の生活に必要なエネルギーを供給するのは

困難であった。
問 日本では大事故はおきかないという「安全神話」についてはどう思うか。
町長 現在の知見・技術を絶対的なものとするのは人類の進歩の観点から危険であり許されるものではないと思う。

問 再生可能エネルギーの展望をどのように考えるか。
町長 ドイツの経験則をとり入れながら再生可能エネルギーの開発を続けることは極めて大きな必要性がある。

問 原発撤退を決断すべきではないか。
町長 脱原発の考えが主流になっ
ているが、ただの「スローガン」で賛成できない。

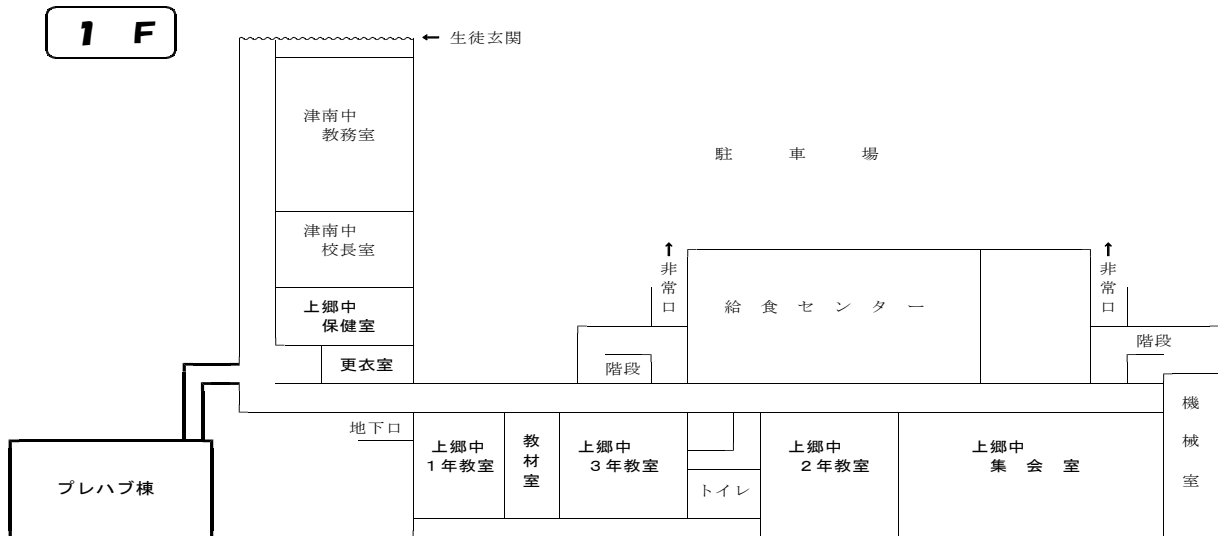
放射性物質	出す放射線	半減期
セシウム137	ベータ線・ガンマ線	30.1年
ストロンチウム90	ベータ線	29.1年
プルトニウム239	アルファ線	2万4100年
アメリカシウム241	アルファ線	433年

環境中に残る放射性物質の例

津南中学校に上郷中学校仮設校舎建設

建設費 801万円

上郷中学校は震災後津南中学校に仮移校していましたが、上郷中体育館棟の安全が保障されないため津南中学校に仮設校舎（プレハブ棟）を増設することになりました。プレハブ棟には職員室、校長室、職員更衣室、津南中・上郷中共有の会議室が設けられます。



平成 23 年度の委員会活動の概要を報告します

委員会レポート

総文福祉常任委員会

- ・内容 県内視察研修
- ・とき 5月13日(金)
- ・場所 上越市、上越市立うらがわら保育園
- ・目的 子育て支援の取組を学ぶ
- ・保育園概要 平成16年4月1日開園 定員130名
- ・入園年齢 0歳～就学前まで旧浦川原は合併一年前に3つの保育園を1つに統合。総事業費5億1,413万9千円をかけ、この保育園を建設。保育士、保育時間(7時型)延長保育も平日は午後7時まで、土曜日は午後5時まで行っています。
- ・保育環境
 - ・自然豊かな環境と、地元の杉丸太を使った温もりのある園舎で伸び伸びと生活している。
 - ・地域活動(世代間交流)の他、ディサービス訪問など地域との交流を深め大切にしています。園舎内には、子育て支援センターも併設、専任の指導員が子育て相談に応じ、子育てに関する情報を発信します。広々としたランチルーム調理室との対面配置により園児と調理員の心が通います。未満児室も2部屋に分かれています。また、ウッドテラスも広く子供たちはテラスを通じ自由に外遊びへと向います。



移動子育てひろばも開放、市内9ヶ所で月1～2回地域に出向き、子育てひろばを展開しています。発達障がい児に対して、専門職(保育士、社会福祉士、看護師、作業療法士など)が常駐しています。

保育園には保育士、正職10人、臨時14人。大きな保育園、地元の太くて大きな杉の木が使われた園舎、思いっきり走り回れるスペースがどこにでもあるように感じました。

子供発達支援センターが十日町、津南地域にも1ヶ所開設できればいいと思いました。学ぶべきことが沢山あり大変有意義な視察でした。

産業建設常任委員会

- ・とき 5月6日(金)
- 委員会では、穴山から寺石、寺石原、越手、羽倉、上野、田中、小島、豊原峠などの地震による農地被害状況を視察してきました。



総文福祉常任委員会

- ・内容 県内視察研修
- ・とき 5月13日(金)
- ・場所 上越市(直江津)、独立行政法人労働者健康福祉機構新潟労災病院
- ・病院概要 昭和35年5月開設。病床数360床、18診療科、急性期病院として北信越地域の勤労者医療と地域医療に貢献しています。
- ・視察目的 接遇について

看護部の理念として、さわやかな挨拶、明るい笑顔、思いやり、優しい言葉、信頼される心のこもった看護を提供します。接遇では色々な問題を共有し、スタッフ全員で議論を深め1人1人が自覚と意識改革を行うことが大切である。職員は自分たちで作ったマナーハンドブックをいつも身につけています。接遇の講師は院内の職員が行っています。今後、町立津南病院を存続していく上でこの接遇改善にむけての研修は大変参考になりました。

決まったこと

人権擁護委員候補者の推薦について

人権擁護委員候補者
高橋芳子氏(十二ノ木)を
再推薦致しました。

財産の取得について

- 1、財産の表示 巡回文庫用自動車
- 2、取得の目的 生涯学習の充実
(読書環境の整備、普及)
- 3、取得予定価格 893万円

条例改正

津南町税条例の一部を改正する条例の承認について
東日本大震災に係る雑損控除額等の特例として税条例の一部改正
(全員賛成)

津南町医学生等修学資金貸与条例の一部を改正する条例の制定について
津南町医学生等修学資金貸与条例中に「看護師」を加え改正
(全員賛成)

災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
東日本大震災に係る災害援護資金の限度額の特例と東日本大震災に係る災害援護資金の償還等の特例を加える
(全員賛成)

意見書

「新潟・長野県境地震」の震災対策の強化を求める意見書

- 1 宅地・地盤被害に対する支援策について
- 2 中山間地農業への支援策について
- 3 企業再建への支援策について
- 4 地域「コミュニティ」再建への支援策について

提出先 新潟県知事

全国町村議会議長会表彰

本年当町議会より3氏が長年にわたる自治功労者として表彰を受けました。

- ◎ 大口 武氏 (写真左)
- ◎ 町村議会議員27年以上在職
- ◎ 吉野 徹氏 (写真中)
- ◎ 町村議会議員15年以上在職
- ◎ 草津 進氏 (写真右)
- ◎ 町村議会議員15年以上在職





「DMAT」

津南病院勤務 宮川千里さん

DMATを知りたろうか？ Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をとって略してDMAT（ティーマット）と呼ばれる災害派遣医療チームのことで、災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チームと定義されている。

私の友人も東日本大震災に看護師として被災地に赴いた。その時の話しを聞くと、被災地では一つの街が消えてしまった信じがたい光景に戸惑いを感じる中、自らが悲惨な状況の中でも医

療支援活動を行える医療従事者でよかったとも感じたそう。

私自身、栄村大震災で避難生活を送る中、自分に何が出来るのか考えた。中々個人では出来ることは少ない。しかし、こんな状況だからこそ、個人個人が小さなことでも出来ることを考えていくことが大切なのだと思う。

普段はチャラ男な友人ではあるが、看護に関しては熱い看護観を持っている。彼に負けないよう日々の看護に努めようと思う。



「津南町」

(有)津南印刷商事勤務 尾身澄香さん

津南町に就職してから早いもので6年が経ちました。それまではまったくと言っていい程、津南町の事は知りませんでした。

車で30分の距離ですが、方言も違えば、冠婚葬祭の形の違いなど日々びっくりするともに新鮮でもありました。

わたしは、津南の人達が好きです。みなさん温かいですし。ここ数年は、津南祭りや津南雪祭りにも参加させていただき、その他イベントにも参加させていただいています。

同年代の人達が積極的に活動している河岸段丘花火やSNOWWAVEなど、その行動力にはいつも驚かされています。ぜひ、多くの方に参加をしていただき、町からもバックアップをしていただきたい。そして恒例行事としてずっと続けていただきたいと願っています。

町の若い人達が盛り上げることで町外から津南へ遊びに来るきっかけができ、津南の良さを知り定住を考える人が少しでも増えればいいなと思います。

編集後記

7月26日第32回町村議会広報研修会に町議会広報委員会の5人も出席し「より読みやすく」ということについて研修を受けてきました。我が町の議会報は今回で183号と県内一の号数と歴史を持っています。広報の始めは先輩議員が身銭を切つての発行であったそうです。当議会報はなんとと言っても表紙から内容すべて広報委員が取材、編集するということであり、他町村では資料集めだけ委員が行う、編集は事務局で行うところが多いと聞きます。この議会報は議会終了から一ヶ月の時間がかかりますが、できるだけ早く町民の皆様にと努力いたしております。今秋には町議会議員選挙があり、新しい広報委員での発行となります。皆様からのご意見、ご指導をよろしくお願い致します。(ね)